

緊急院内集会・記者会見

WWF-Japan, JUCON (JAPAN - US Citizens for OKINAWA Network)

生物多様性を破壊し、住民の暮らしを脅かす 沖縄県東村高江の米軍ヘリパッド建設を 中止させよう！

政府・防衛省は、沖縄島北部の生物多様性豊かな「やんばるの森」の一部であり160人の住民がすんでいる高江の集落を取り囲むように、6か所の在沖米軍海兵隊のヘリパッドを建設しようとしています。現在、沖縄防衛局により、地域住民の反対を押し切って、力づくで工事が進められています。

世界自然遺産の登録基準を満たす生物多様性の宝庫を破壊し、米軍演習によって今も被害を受けている地域住民の生活を、さらに爆音と墜落の危険にさらす米軍ヘリパッドの建設強行は、決して許されるものではありません。

政府に、工事の強行を速やかに中止し、ヘリパッド建設計画の撤回を求める緊急集会、記者会見を開催します。ぜひ、ご参加をお願いいたします。

なお、同日午後2時30分から、防衛省への申し入れを行います。

日時：2月23日（水）12時～13時

会場：参議院議員会館 B-104会議室

主催：WWFジャパン、JUCON (JAPAN - US Citizens for OKINAWA Network)

内容：

1. 高江の現状報告

2. 環境団体からの声明と発言

WWFジャパン、グリーンピース・ジャパン、日本自然保護協会、日本野鳥の会、日本環境法律家連盟（JELF）

3. 平和団体からの声明と発言

JUCON (Japan - US Citizens for Okinawa Network)、US for Okinawa、「沖縄に基地はいらない！」全国同時アクション、WORLD PEACE NOW、ゆんたく高江、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

4. 米国民間団体からの声明について

Network for Okinawa(NO)

5. 国会議員からの発言

6. 質疑応答

* JUCON (JAPAN - US Citizens for OKINAWA Network)とは

米軍基地問題に取り組む日米の市民・NGOのネットワーク。普天間基地の閉鎖・撤去と、沖縄県内に新しい代替基地を作らせないこと、美しい沖縄の海や自然を守ることを目的に日米の市民が結集。米側パートナーはNetwork for Okinawa(NO)

■ お問い合わせ：花輪伸一（WWFジャパン）090-2452-8555
野平晋作（JUCON）090-6015-6820

生物多様性を破壊する 防衛省の米軍ヘリパッド建設工事強行に抗議し 計画の中止を強く要請します

WWF ジャパン
グリーンピース・ジャパン
(財)日本自然保護協会、
(財)日本野鳥の会

私たち環境保護団体は、防衛省が、沖縄県東村高江の生物多様性に富む「やんばるの森」において、米軍ヘリパッド建設工事を強行していることに対し、強く抗議するとともに、建設計画の中止を要請します。

防衛省沖縄防衛局は、東村高江において、建設中止を訴える地域住民を無視し、大勢の職員、作業員を動員して住民を威圧しながら、米ヘリパッド建設工事に着工しました。建設現場には、ダンプカーにより大量の土嚢が運び軍込まれ、パワーショベルが稼働し、樹木の伐採が行われています。

計画では、無障害物帯を含めて直径 75 メートルの巨大な米軍ヘリパッドが6か所建設され、そこで行われる米国海兵隊の軍事演習には大型の垂直離着陸機オスプレイを使用すると伝えられています。巨大ヘリパッドの建設とオスプレイを使う軍事演習は、地球上で沖縄島にしか生息しないノグチゲラ、ヤンバルクイナなど多くの固有種、固有亜種や、さまざまな野生生物にとって大きな脅威となり、生物多様性に富む「やんばるの森」の環境を大きく悪化させることとなります。さらに、高江の集落を取り囲むように建設されることから、地域住民の生活に大きな危険と不安をもたらすこととなります。

那覇防衛施設局（当時）の「環境影響評価図書（2006年）」によれば、ヘリパッド建設予定地とその周辺で、4,158種にもおよぶ膨大な数の野生生物種が記録されています。そのうち12種の植物、11種の動物が地球上で沖縄島北部にのみ生育・生息する固有種・固有亜種であり、絶滅のおそれのある種が177種（環境省レッドリスト）、188種（沖縄県レッドリスト）も含まれています。また、天然記念物の生物は、国指定、県指定それぞれ8種が記録されています。

これは「学術上あるいは保全上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅のおそれがある種を含む、生物の多様性の野生状態における保全にとって、もっとも重要な自然の生育地を含むこと」という旨の世界自然遺産の選定基準のひとつを十分に満たしており、地球規模で見て重要な自然環境、野生生物生息地であることを示しています。

一方、IUCN（国際自然保護連合）の世界自然保護会議（アンマン 2000年、バンコク 2004年）では、沖縄島「やんばるの森」にのみ生息するノグチゲラ・ヤンバルクイナとその生息場所の保全を日米両政府に勧告しています。日本政府には、生物多様性と絶滅のおそれのある種の保全計画を作成すること、自然遺産への指名を検討すること、保護区を設置すること、ヘリパッドを造らない選択（ゼロ・オプション）を含む環境アセスメントを実施すること、米国政府に対しては、米軍の環境管理基準をもとに野生生物保護の観点から日本政府と協議すること、日本政府の環境アセスメントに協力することを勧告しているのです。日米両政府は、両国ともに加盟している国際機関である IUCN の勧告を遵守するべきです。

また、2010年10月に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議」では、日本が議長国を務め、生物多様性のための戦略計画である「愛知ターゲット」が採択されました。愛知ターゲットでは、2020年までに「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」ことを、ミッション(使命)として掲げています。しかし、東村高江における米軍ヘリパッド建設は、このミッションに大きく反するものであり、地球の生物多様性を率先して保全する義務を負う議長国としての責任を放棄するものと言わざるを得ません。

米軍ヘリパッドの建設工事を強行することは、固有種、固有亜種を含む多様な野生生物に悪影響をおよぼし、世界自然遺産の価値がある「やんばるの森」の豊かな生物多様性に大きな脅威を与えることとなります。また、人口約160人、そのうち中学生以下が約20人の小さな集落である高江の住民を軍用機の爆音や墜落の危険にさらすこととなります。

政府は、世界自然遺産の候補地となり得る「やんばるの森」の生物多様性保全と持続可能な利用を重視し、また、地域住民の安全で安心な生活を保障するために、高江における米軍ヘリパッド建設計画を中止するべきです。

◆この件に関する問い合わせ先

WWF ジャパン：花輪伸一 (TEL. 03-3769-1711 FAX. 03-3769-1717)

グリーンピース・ジャパン：佐藤潤一 (TEL. 03-5338-9800 FAX. 03-5338-9817)

(財)日本自然保護協会：大野正人 (TEL. 03-3553-4103 FAX. 03-3553-0139)

(財)日本野鳥の会：古南幸弘 (TEL. 03-5436-2620 FAX. 03-5436-2635)

防衛省による米軍ヘリパッド建設工事の強行に 強く抗議し建設計画の中止を求める声明

JUCON (Japan - US Citizens for Okinawa Network)
Us for Okinawa
「沖縄に基地はいらない！」全国同時アクション
WORLD PEACE NOW
沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック
ゆんたく高江

私たちは、防衛省沖縄防衛局による東村高江での在沖米国海兵隊のヘリパッド建設工事強行に強く抗議します。さらに私たちは、日本政府およびアメリカ政府に対し、高江での米軍ヘリパッド建設計画を、早急に中止することを強く要請します。防衛省は、建設に反対する住民・支援者を力づくで排除してはなりません。

沖縄防衛局は、東村高江において、建設中止を訴える地域住民を無視し、100人から200人の職員・作業員を動員して住民を威圧しながら、米軍ヘリパッド建設工事を強行しています。建設現場において、ダンプカーにより大量の土嚢が運び込まれ、ユンボが稼働し、樹木が伐採され、抗議を続ける住民の頭越しに砂利の入った土嚢を投げこむなど危険な作業が続けられています。住民のなかには転倒により怪我を負う人々も出ていると伝えられています。

米軍ヘリパッドは、無障害物帯を含めて直径75メートルの巨大なもので、高江の集落を取り囲むように6か所に建設される計画です。さらに、そこで行われる米国海兵隊の軍事演習には、大型の垂直離着陸機オスプレイを使用すると伝えられています。巨大ヘリパッドの建設とオスプレイによる海兵隊の軍事演習は、耐え難い爆音と墜落の恐怖をもたらし、地域住民の生活に大きな危険と不安をもたらします。さらに、ノグチゲラ、ヤンバルクイナなど多くの固有種が生息し、生物多様性に富む「やんばるの森」の環境も大きく悪化させることになります。

米軍ヘリパッドの建設工事が強行されている東村高江は、人口が約160人で、そのうち中学生以下が約20人の小さな集落である。住民を軍用機の爆音や墜落の危険にさらすことは、基本的人権を無視し、平和で健康な生活を保障する日本国憲法に背くことです。

日本政府は、地域住民の安全で安心な生活を保障するために、また、生物多様性の保全と持続可能な利用を重視し、環境・人権・平和を優先して、高江の米軍ヘリパッド建設を中止すべきです。

◆この件に関する問い合わせ先

Japan - US Citizens for Okinawa Network (JUCON) :

<http://jucon.exblog.jp/>

TEL:052-459-1753, FAX:052-459-1751

Us for Okinawa : <http://us-for-okinawa.blogspot.com/>

「沖縄に基地はいらない！」全国同時アクション : <http://nobase.org/>

WORLD PEACE NOW : <http://www.worldpeacenow.jp/>

沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック : <http://www.jca.apc.org/HHK/>

ゆんたく高江 : <http://helipad-verybad.org/>

防衛省の米軍ヘリ沖縄・やんばるの森と 辺野古における新軍事施設建設に関する「Network for Okinawa」(沖縄のためのネットワーク) 声明文

沖縄のふたつの米軍施設で新たな建設進む
米国支援者たち、平和的な抗議者に対する扱いに憂慮を示す

米国防長官ロバート・ゲーツが沖縄米軍基地の再編に関して最近、より柔軟に対応すると示唆したにも関わらず、日本の防衛省・自衛隊沖縄本部(沖縄防衛局)は、一月の最終週に沖縄北部にあるふたつの米軍基地に新たな施設の建設を進めています。この建設により、国際平和・環境団体から抗議の声があがりました。

建設作業員が建設資材や機材を高江の山原(やんばる)の森へ移動する際、地元住民を押しつけて通り過ぎました。また、キャンプ・シュワブと海辺の境界にある有刺鉄条網を臨時の壁に置き換えることで、建設現場を抗議者の視界から妨げる試みです。住民は、1996年末に日米政府が計画を発表して以来、両建設現場では住民たちが反対運動を行ってきました。住民たちは、繊細な環境および文化遺産の危機をずっと訴えてきました。両方の現場は、沖縄でしか見つけることのできない希少種や絶滅危惧種の生息地です。

「沖縄防衛局の行為は大きな懸念であり、沖縄地域の正当な不満をあきらかにしています。私たちは、工事関係者には不適切な行動を慎むよう要求します。私たちは、日米両政府に対し、沖縄の圧倒的多数の人々が新基地建設阻止のために投票した民主的な願いを尊重するよう求めます」と、米国を拠点にしている「Network for Okinawa」の代表のジョン・フェファー氏は語りました。

高江近くの米海兵隊のジャングル戦闘訓練センターの計画は、米軍が開発した垂直離着陸機V-22オスプレイが操作できる米軍のヘリパッド6つを含みます。住民は、建設が160人の住む村を囲み、生物が多様なやんばるの森に被害を及ぼすと異議を唱えています。2007年から2010年12月までの間は、建設の阻止に成功していましたが、今回、抗議テントが米軍のヘリコプターによって部分的に破壊され、建設作業員たちが強制的に建設を再開しました。2007年から2010年12月までの間は、建設の阻止に成功していましたが、

キャンプ・シュワブ付近の住民は、新航空基地建設と辺野古湾の珊瑚礁を覆う軍事港の建設に反対しています。軍事指導者らは、この新巨大基地は、現在物議を醸している普天間基地の代わりだと述べています。この計画は、建設現場内に絶滅危惧種が生息しているため、国際的な批判を招いています。2008年、米国連邦地裁の裁判官は、辺野古と大浦湾における建設計画が日本の「自然遺産」であるジュゴンにもたらす影響への「配慮」を、国防総省が怠っていることによる、米国文化財保護法違反であるとの判決を下しました。昨年11月には、普天間基地を閉鎖し、県外移設を公約した人が沖縄県知事に選ばれました。

「日米両政府が、世界で最も多様な生態系に取り返しの付かない損傷をもたらす建設計画を主張し、推し進めるのは信じ難い悲劇です。」と、フェファー氏は語りました。「金融危機や悪化する財政状況の中、両国が、教育や社会福祉活動を削減し、軍産複合体への利益のみを支援する計画を受け入れるとは、衝撃的です。」

※ 「Network for Okinawa」(沖縄のためのネットワーク)は、米国と世界の平和・環境団体、宗教的奉仕活動団体、大学・研究機関やシンクタンクの代表者を結びつけ、沖縄における軍事施設建設に反対し、民主的な判断をサポートする草の根のネットワークです

◆問い合わせ: John Feffer (Network for Okinawa): www.closesthebase.org
Mail: john@ips-dc.org